

## 社会環境と健康 (Environment and health)

### 【責任者/担当者】

〔環境予防医学〕 若林 一郎 主任教授

### 【担当者】

〔環境予防医学〕 丸茂 幹雄 准教授、久保田 芳美 講師、増田 浩史 非常勤講師、  
荒木 慶彦 非常勤講師、東山 綾 非常勤講師、高橋 裕二 非常勤講師

### 【目的】

- ・疫学概念と諸指標を理解する。
- ・環境異常による疾病発生のメカニズムを理解する。
- ・食品保健、母子保健、精神保健の動向を把握する。
- ・生活習慣病の予防法を身につける。
- ・英語論文を読解する。

### 【科目キーワード】

「疫学(Epidemiology)」「物理環境異常(Abnormal physical environment)」「母子保健(Maternal and child health)」「精神衛生(Mental health)」「栄養学(Nutrition)」「食品衛生(Food hygiene)」「生活習慣病(Lifestyle-related diseases)」

### 【到達目標(アウトカム)】

- 環境と健康・疾病との関係の概念を説明できる。
- 疫学の諸指標について説明し、与えられた条件下で計算できる。
- 環境要因とそれに関連した疾患との関係および疾患予防法を説明できる。
- 生活習慣とそれに関連した疾患との関係および疾患予防法を説明できる。
- 健康の保持増進のための食・栄養を含むライフスタイルの重要性を説明できる。
- 母子保健・精神保健とそれに関連する医師の役割を説明できる。
- 環境関連の英語論文を精読し、それに関する討論ができる。

### 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。

### 【概要ならびに履修方法】

今日環境問題に対する社会的関心がますます高まっている。20 世紀には驚異的な科学の進歩が成し遂げられた一方で、以前予想していなかったさまざまな環境問題が発生した。そしてこれらの問題にいかに関わり向かうかは 21 世紀における人類にとっての大きな課題である。この科目の講義では、人と環境の係わり合いを生態学および生理学的観点に立って認識し、人類の健康・生存の確保について包括的に捉え、社会および生活環境の変化に対して、生体がどのように適応しているかを学習し、その破綻がどのようにして疾病の発症にいたるかについての理解を深めるとともにその予防について考えることに重点をおく。

### 【準備学習ならびにそれに要する時間】

当日の授業に関連する課題を解決する(約 1 時間)。

### 【成績の評価方法・基準】

講義および実習についての試験を実施し、それらの結果および出席状況から総合的に判定する。

### 【学生への助言】

特になし

### 【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(特に低正答率問題)。

### 【オフィスアワー】

特になし

### 【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

### 【教科書】

教科書は特に指定しないが、少なくとも一冊は通読することが望ましい。なお、各担当者が作成した講義資料を配布する。

### 【参考書】

「国民衛生の動向(2021/2022)」(月刊誌「厚生の指標」増刊 68 巻 9 号)、厚生労働統計協会編(厚生労働統計協会)2021 年

「環境白書 / 循環型社会白書 / 生物多様性白書(令和 3 年版)」環境省 編(日経印刷)2021 年

### 【連絡先】

教育研究棟 11 階 環境予防医学 セミナー室